

中之島公園

中之島公園は、大阪市中心部の涼しい川に挟まれた緑豊かなオアシス島です。中之島公園は大阪で最も古い公園ですが、公共空間のあり方に対する考え方の変化とともに、現在も進化し続けています。

大名の地区から公営公園へ

中之島は天然の中州で、長さは 3 キロメートルにおよぶ一方、幅は最も広い部分で 2～300 メートルしかありません。17 世紀以降、日本各地の大名は中之島対岸の（世界で最初の先物取引市場でもあった）米市場で取引をするためにこの場所に蔵を建てるようになりました。

1868 年に幕府に代わって政権をとった明治政府は米を基本とする経済の仕組みを廃止したため、これらの蔵は使われなくなりました。その後数十年の間に、大阪市はこの土地を取得し始め、成長を続ける大都市のための公共空間を作り上げました。

18 世紀以来、中之島の東端はレクリエーションや観光に利用されていました。大阪市は中之島の東を天神橋の先まで 500 メートル延長し、この新たに造られた部分を 1899 年に正式に公園に指定しました。現在、中之島公園の範囲は島の東半分、10 ヘクタール以上におよんでいます。

バラ園、ライオン橋の東側

中之島公園の緑地の大部分は難波橋より東側にあります；難波橋はその四隅に設置された石造りのライオンにちなんで「ライオン橋」とも呼ばれています。公園内には開花時期に夜間ライトアップが行われる約 100 本の桜もありますが、中之島公園の花の主役は 1980 年に開園したバラ園です。

バラ園は難波橋のすぐ東側にあります。アーチ型の橋がかかった美しい水路を挟んで二分されたこのバラ園には、310 種 3,700 株のバラが植えられています。バラは毎年 2 回、5 月中旬～下旬と 10 月に開花します。庭園のすぐ北側には小さなカフェ兼レストランがあり、利用しやすいトイレも近くにあります。

バラ園の東側には芝生広場があり、朝の体操やパラソルの下での家族連れのピクニック、日光浴などさまざまなレクリエーションに利用されています。その両側の水辺では、観光船やスタンドアップパドルボードを楽しむ人たちが絶えず行き交っています。7 月 25 日に開催される大

阪最大の夏祭り「天神祭」では、川は参拝客や太鼓奏者などを乗せた何十隻もの船で埋め尽くされます。

難波橋の西側

難波橋より西側は、緑地は少ないものの、再開発によって川沿いの心地よい雰囲気になっています。このエリアの見どころには、中之島南岸の野外劇場、東洋陶磁美術館、著名建築家・安藤忠雄による設計で青リングのオブジェが有名なこども図書館、ツバキやツツジなどの花木が並ぶ中之島緑道があります。また、島の西側は、大阪府立中之島図書館（1904年竣工）や大阪市中央公会堂（1918年竣工）など、ヨーロッパ風の建築物でも知られています。